

18歳の本音新書で残す

北杜高3年3組は、卒業文集「北杜高校3年3組の本」を出版した。昨年6月から半年間、高校生活について生徒33人がつづったエッセー約100本を新書サイズの書籍に収載。表紙デザインや挿絵も生徒が手掛け、書籍編集制作の百年書房(東京)が発行した。3月1日の卒業式の日クラス全員に配布する。(戸松優)

北杜高3年3組 クラス文集を書籍化 生徒が編集、デザインも

「悩んで泣いて、その度に周りの人に支えてもらった」「10年後のあなたはいつたい何をしていますか」。作文には、友人、家族への感謝の思いや将来への不安など、卒業を目前に控えた17、18歳の本音がのぞく。生徒たちは学校行事や部活、受験や好きなことなど、それぞれ3本の原稿を執筆。原稿をパソコンで打ち込み、表紙の似顔絵を描くなど編集作業に加わり、出席簿や座席表、クラス写真も添えて、166頁の新書に仕立てた。

卒業文集の書籍化は、担任の千野政寿教諭が提案。千野教諭によると、クラス文集作りに取り組む高校は少ないが、「高3の1年間は、進路を決めるドラマチックな時期。高校生として今の思いを活字に残すことは価値がある」と考え企画した。

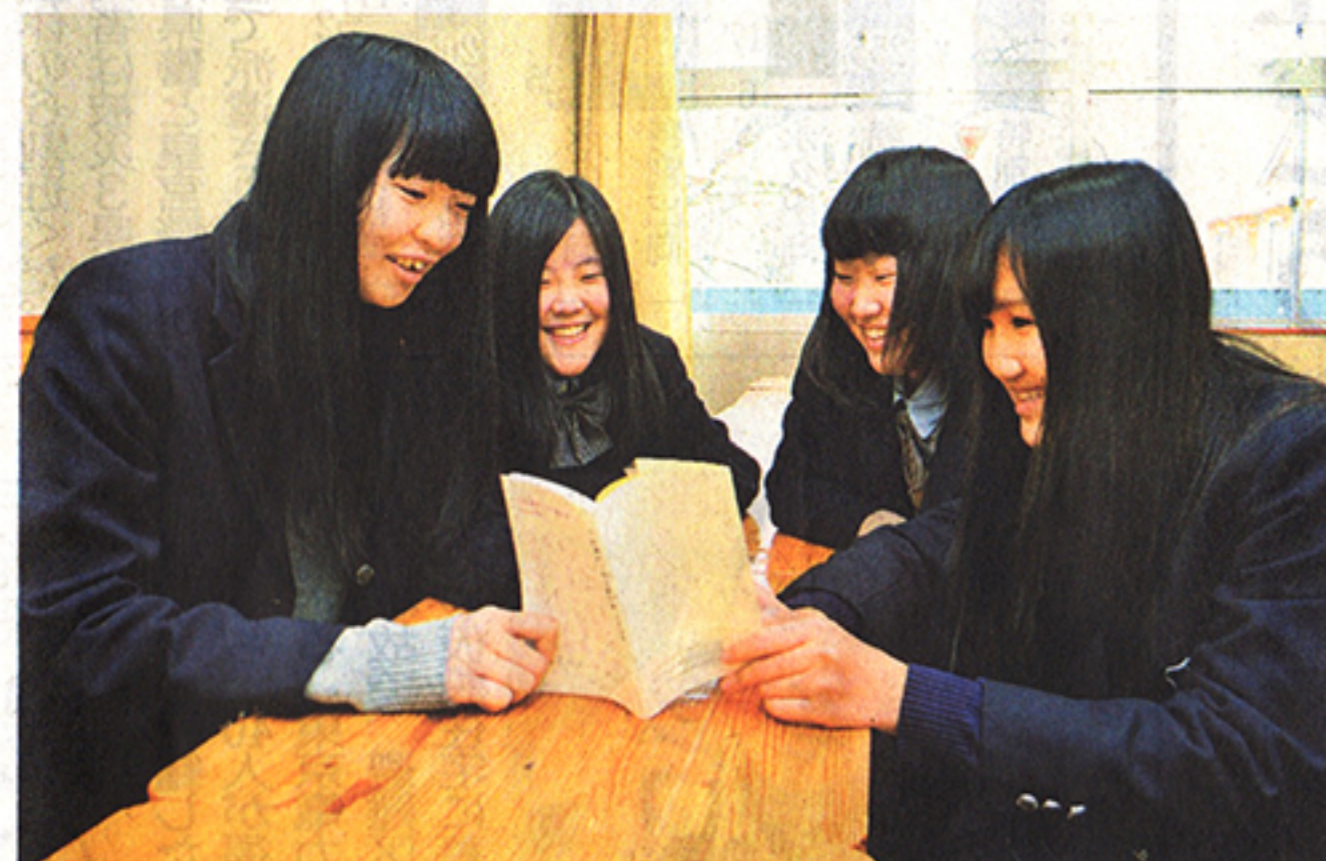
雨宮莉緒奈さんは原稿をパソコンで打ち込む作業を担当。クラスメートの作文を読みながら、「親に感謝していたり、部活や趣味に熱中したり、普段言葉にしななくても高校生活で考えてい

たことを初めて知ることができた」という。4月から東京都内の大学に進学する坂本あゆみさんは「友人と離れ離れになっても、クラス本を下宿に持っていき大切にしたい」と笑顔で話した。

北杜高校3年3組の本
平成27年度



010000



完成したばかりの書籍を眺める編集担当の生徒。卒業式当日にクラス全員に配布する。北杜高

北杜高3年3組が出版した卒業文集「北杜高3年3組の本」